

令和2年度 学校評価表 (中間評価)

学校教育目標 一歩前へ！果敢に挑戦 一夢を志にー

ミッション 「西中だからこそ」の

ビジョン 信頼され誇れる学

4:達成 3:概ね達成 2:もう少し 1:できなかった

海田町立海田西中学校

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標 A:達成 B:概ね達成 C:もう少し D:できなかった	目標達成のための具体的方策	評価結果	自己評価			学校関係者評価 コメント	
							評価点	成果○と課題▲	改善策		
確かな学力の育成	学力で一歩前へ果敢に挑戦	○夢を志にする力の育成	各種学力調査で全国平均値を超えることができる。 1年,2年:CRT(標準学力検査)【国社数理英】とする。	A:全教科 B:3教科以上 C:2教科以上 D:1教科以下	・全教職員で本校の課題を共有化し、個に寄り添った学習支援をするために、「学習定着週間」や長期休業中の補充学習を行う。 ・国・数・英3教科の家庭学習ノートの取組を行い、授業で学んだことを繰り返し学習させたり、振り返りを行わせていく。 ・各種テストにおいて、生徒実態を把握し、PDCAを行い授業改善につなげる。	※今年度の全国学力状況調査は、町内での実施にとどまっているため、全国平均との比較ができない。また、CRT調査は、今年度12月に実施したのち評価していく。	中間	1	・日々の授業の中で、既習事項の確認のための小テストを行い、生徒に復習を繰り返して行わせていく。 ・手本となる家庭学習ノートの掲示物を作成し、家庭学習ノートの質の向上を図る。 ・試験週間のHR学習の時間に、副担任が基礎学力に課題のある生徒への補充学習を行う。	・根拠を明確にして説明するということが、論理的に話すということ、社会人になっても問題で自ら基礎固めの指導をお願いしたい。 ・コロナ禍で学習時間を確保されるのは大変かと思いますが生徒たちに寄り添い丁寧な指導をお願いします。	
		○授業力の向上	①授業では、解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないかと予想しています。②授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝えるように発表をくふうしています。③振り返りを行っています。と答える生徒の割合が前年度を上回る。(※③については新規。1回目調査と最終調査の比較とする)	A:5ポイント以上 B:1ポイント以上～5ポイント未満 C:県平均 D:上回ることができなかった	・振り返りの中では、「分かったこと・できるようになったこと」「まだ分からないこと・練習が必要なこと」以降の授業で意識することの3点を軸に、自己の学習到達度をメタ認知させながら、次の学びや日々の活動への意欲へとつなげていく。 ・校内研修会を行い、すべての教員が授業改善の視点に基づいた単元開発を行う。	①②③の質問項目に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が前年度と比較すると、①は91%から96%で+5%、②は81%から90%で+9%、③は86%から94%で+8%となった。	中間	4	○日々の授業の中で、振り返りの時間を確保し、振り返りシートを活用した成果が出ている。 ▲②の質問項目に対して、否定的な回答をした生徒が各クラス4,5人いる。	・各教科において、自分の意見とその理由を思考させる時間を確保している。 理由をつけて、発表することが困難な生徒に対して、個別の発問によって、理由を引き出す指導をしていく。	・国語での基本的な学力は付いているが応用で文章にしたり数学での図やグラフ等の説明は苦手という課題は、想像力が乏しいかと思う。自己表現や文章力にも繋がる手紙を書かせるのも良いのではないかと。 ・学校再開後の工夫された授業で学力の定着を図る努力を継続してほしい。
豊かな心の育成	豊かな心で一歩前へ果敢に挑戦	○生徒会活動の活性化	委員会活動の取組に積極的に協力し、参加したとする生徒を80%以上にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	○委員会活動の取組が生徒一人一人のものとなるよう、各委員会は取組の進捗状況並びに成果と課題を明らかにさせていくとともに、地域・保護者へ発信する広報活動をさらに推進していく。 ○委員会の取組に則り優れた学級、生徒へは積極的に全体の場で肯定的評価を行う。	肯定的評価 179人(88.6%) 否定的評価 23人(11.4%) 1年肯定54人(85.7%)否定9人(14.3%) 2年肯定62人(91.2%)否定6人(8.8%) 3年肯定63人(88.7%)否定8人(11.3%)	中間	4	○肯定的評価は、2年生が91.2%と高く、次いで3年生88.7%、1年85.7%となっており、いずれも目標値を越えている。 ▲「大いに参加、協力できた」とする生徒は、全体で52.0%、特に1年生が44.4%に留まっている。	・新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業により、年間活動予定が遂行されない状況があった。その為、今後計画の修正を行い、できる範囲での行事を立案し実行していく中で、取り組みの充実をはかる。 ・委員会活動の取組を校外へ通信やHPで広く発信し、委員会活動の有用性や達成感を生徒に実感させる。	・委員会活動への積極的な参加があり、子ども達の良好な学生生活がうかがえる。 ・コロナ休校中、生徒も不安定だったと思いますが、丁寧に対応されているのが生徒の実感に現れている。 ・今後も肯定的な評価を大切に取り組みでほしい。 ・1年生は希望からの不安が大きいだろう。少しでも行事、繋がりが学校への関心へと変わるのではないかと。
		○道徳的実践力の向上	①生徒の自尊感情を高める肯定的な回答を全校で80%以上にする(QUIアンケート「みんなのためになることを自分で見つけ実行している」項目) ②無言掃除ができたという生徒を100%にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	①A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満 ②A:100% B:90%～100%未満 C:70%～90%未満 D:70%未満	○あらゆる教育活動において、生徒がポジティブに自己を捉えるよう、タイミングの良い肯定的評価を学校、保護者、地域が一体となって行う。 ○体験活動の意義を説明し、生徒に意欲を持たせる。 ○無言掃除の意義を理解させ、海田西中独自の文化として定着するよう意欲を喚起していく。	①肯定的評価 204人(89.9%) 否定的評価 23人(10.1%) 1年肯定65人(92.9%)否定5人(7.1%) 2年肯定71人(89.9%)否定8人(10.1%) 3年肯定68人(87.2%)否定10人(12.8%) ②85.5%の生徒が達成できている。	中間	4	①に関して ○肯定的評価は、1年生が92.9%と高く、次いで2年生89.9%、3年87.2%となっており、いずれも目標値を越えている。 ▲学年が上がるにつれて肯定的評価の割合が減少傾向にある。 ②に関して ○多くの生徒が無言掃除の意義を理解し、意識して行っている。 ▲数人の生徒が無言で行っていない。	①について ・生徒の活動に対して肯定的な評価を行う。また、奉仕活動や様々な行事を企画し、生徒の活躍の場を設定する。 ②について ・意義を語り、自発的に無言掃除に向かうことができるように指導を継続していく。 ・社会に出てから役立つように、対応力の強化、積極性、リーダー力、自己表現力等を身に付けることができるよう中学生の間に基礎的なところの指導をお願いしたい。	
健やかな体の育成	たくましい体で一歩前へ果敢に挑戦	○体力の向上	体力テストで、体力項目の80%以上、全国・県平均を上回る項目がある。	A:80%以上(48項目中) B:70%以上80%未満 C:60%以上70%未満 D:60%未満	○各自目標値を持って取り組ませる。 ○弱点補強を授業とリンクさせる。	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、新体力テストを実施しておらず、数値での評価は行えないが、臨時休業や自粛期間が長かった影響で、体力の低下がみられる。	中間	1	※新体力テストは、今年度は実施していないため、比較ができていない。 学校独自で体力テストを12月に実施し、昨年度の記録と比較する予定である。	・体育の授業においては、毎時補強運動を設定し、基礎体力の向上に努めるように努めていきたい。 ・体育の理論の学習を、学習プリントを工夫することで、効率よく行い、できるだけ運動時間を確保できるようにする。	・体育授業の補強運動や基礎体力の向上に努めていきたい。 ・生徒たちも部活が制限される中、よく頑張っている。
		○情報の受信・発信の充実	①保護者アンケート項目「子どもの学校の現状について」の満足度が前年度を上回る。 ②生徒会執行部がホームページ用の原稿を作成し、アップする。	①A:すべての学年が前年度以上 B:一部の学年が前年度以上、どの学年も前年度未満はなし C:前年度と同じ(90%) D:前年度を上回ることができない ②A:毎月複数回アップできる。 B:毎月アップできる。 C:毎学期アップできる。 D:できなかった。	○HPや学校だより等で、学校の取組や、やりきる生徒、関わりきる教職員の姿など、前向きな姿を発信する。 ○生徒会と連携し、学校行事や日々の活動について生徒目線での記事を盛り込んだ親しみやすいページを作る。	※昨年度と同じアンケートは実施していないので比較はできていない。学校独自で12月の懇談時に実施するか検討中。 ・生徒会執行部による「新入生オリエンテーション」、「三密を防ごう」、「あいさつ運動」、「委員会活動」の様子をアップした。	中間	4	○学校の取組や生徒の様子などを含め、HPに24回アップしている。全校生徒、教職員が参加したドローン撮影動画の一部アップした。 ○学校だより、学年だより、保健だよりなど、毎月発行できた。 ▲前期は、生徒会執行部による活動がなかった。	・HPの更新をさらに増やす。 ・学年だよりや保健だより、これまで以上に生徒の主体的な活動を載せる。 ・ドローン撮影の写真をベースに、全校生徒が壁面の作成に取り組む。生徒会執行部がデザインの作成を手がけており、パーツ作りは個人作業になるが、それらの活動を紹介する予定。	・HPを拝見してドローン画像や部活動等、生徒の楽しそうな雰囲気や部活動ができていることに安心し嬉しく思った。 ・保護者アンケートを3校で同時期に同じ内容で行い結果を共有してみたいかどうか。 ・学校行事もほとんど中止され保護者、地域との関係が薄れているのでHPへのアップは生徒の活動している場面を多くして保護者へアピールしてほしい。
誇れる学校	働いて良かったと思える西中に	○働き方改革の推進	①教職員アンケート項目「生徒と向き合う時間が確保できている」の割合を70%以上にする。 ②時間外勤務の総時間数を、前年度比10%以上削減する。	①A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 ②A:10%以上減 B: C: D:10%減未満	○今年度、組織の見直しを行い、業務の効率化をめざす。 ○毎週水曜日の職員朝会で定時退庁を呼びかける。	①76%:A ②前期は、昨年度が全職員の月当たりの平均が平均約45時間に対し、今年度は同40時間だった。:A	中間	4	▲組織の見直しは行ったが、個の対応が多く、起案の差し戻しなど合理的でない部分がある。 ○昨年度の平均値の比較は減少したが、月によっては前年度を上回っていた。	・学年及び分掌で、各主任が関係者と事前に連携しながら、業務を効率化し、生徒と向き合う時間の確保ができるようにする。 ・冬季は部活動も早く終わり、生徒の下校も早まるので、定期試験前後や成績処理期間を除いて、早期退校ができるよう各主任と連携して声をかけ続ける。	・教職員の皆様は、日々の準備、消毒など生徒が安全に学校生活を送れるようお願いします。 ・時間外勤務についてはまさにコミュニケーション丸となって取り組むべきことだと思ふ。 ・働き方改革も行いながら生徒と向き合う時間も確保しなければならないので、効率の良い働き方が必要である。 ・ソフト面、ハード面の改善を図りながら両立して行ってほしい。